## 編集後記

『ヴィクトリア朝文化研究』第22号をお届けします。

例年、全国大会の開催される11月下旬に刊行されていましたが、今号は1ヶ月余り遅れて、年を越してのお届けになってしまったことを、伏してお詫び申し上げます。事務局の移転に伴う新体制構築の中で少々混乱があり、初動が遅れました。次年度は従来どおりに刊行できるよう精励いたしますので、どうかご寛恕いただけますと幸いです。

さて2024年はウィルキー・コリンズ生誕200年に当たることから、コリンズ研究の泰斗であり、ウィルキー・コリンズ・ジャーナルの編集長を務められているグレアム・ロー先生にエッセイを寄稿していただきました。美術史の徒である私にとってコリンズは、J. M. ホイッスラーの《ホワイト・ガール》との関連――『白衣の女』を描いたと誤解されて画家が憤慨したという逸話――によって初めて知った名であり、関心はむしろJ・E・ミレイの絵筆や数々の写真、カリカチュアで伝わる愛すべき面立ちだったりもするのですが、今、こうして最新の研究動向に触れる機会を得て、この学会のありがた味を感じているところです。

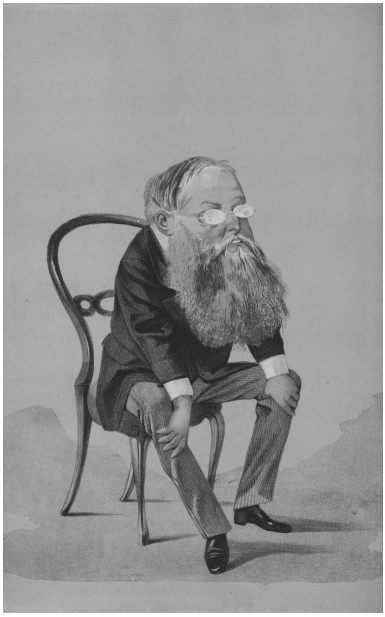
今号には論文6本の投稿があり、厳正な査読の結果、1本を掲載することとなりました。残念ながら今回採択に至らなかった論文の中にも、大いに可能性を感じさせるものがありました。それぞれ査読コメントを参考にして、是非再チャレンジしていただきたいと思います。パンデミックによる移動制限は無くなったものの、世界の情勢は未だ不透明、円安も続いており海外での調査研究には厳しい状況ですが、オンラインで可能なことを活用しながら積極的に取り組んでいければと、自戒も含めて切に願います。

なお投稿に際して今年から、指定のフォームに必要事項を記入して提出していただくことになりました。これは昨年度、論文の不正行為が発覚したことに伴い、再発防止策の一つとして、提出前のチェックリストを導入したことによるものです。投稿規程も改訂されていますので、次回投稿される方はご留意ください。

最後になりましたが、論文・書評等を執筆してくださった方々に御礼申

し上げます。編集のために貴重な時間を割いてくださった編集委員の皆様、そして何かにつけての相談に快く応じて不慣れな委員長を助けてくださった、前任の伊藤航多先生、事務局の石川大智先生、諏訪暁先生、ありがとうございました。また度々の日程変更にも対応して本誌の刊行を支えてくださった、大日本法令印刷の大塚麻子様にも、この場を借りて御礼申し上げます。

（小野寺玲子）



Men of the Day, No. 39.
“The Novelist who invented Sensation”
*Vanity Fair*, Feb. 3, 1872